

洞爺湖町の財政の健全化
判断比率等を公表します

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）に基づき、平成27年度決算により算定した健全化判断比率及び資金不足比率は、次のとおりです。

1. 健全化判断比率

(単位：%)

区分	H27比率	H26比率	早期健全化準 基	財政再生準 基
実質赤字比率	—	—	15.00	20.00
連結実質赤字比率	—	—	20.00	30.00
実質公債費比率	14.2	14.4	25.0	35.0
将来負担比率	63.9	80.9	350.0	—

※各比率の「—」は、赤字又は資金不足がないことを表す。

2. 資金不足比率

(単位：%)

会計名	H27比率	H26比率	経営健全化準 基
水道事業会計	—	—	20.00
公共下水道事業 特別会計	—	—	20.00
簡易水道事業 特別会計	—	—	20.00

※各比率の「—」は、赤字又は資金不足がないことを表す。

算定の結果、実質公債費比率、将来負担比率とも、平成26年度決算に比べ改善が図られました。
引き続き、町民の皆さんの理解と協力を得て、財政の健全化に向けてまい進していきます。

有珠山噴火想定訓練

住民ら396人参加
外国人観光客への
避難誘導も実施



翻訳アプリを搭載しているタブレット端末で避難所を確認する外国人参加者

有珠山の噴火を想定した避難訓練が、10月22日、住民や行政、消防、警察、自衛隊など総勢396人が参加して行われました。今回の訓練は、有珠山噴火ハザードマップに記載されている火砕流の危険区域である洞爺湖温泉、入江、泉などの各地区住民約5,400人が対象。
有珠山の噴火警戒レベルが3から4に引き上げられたとの想定で訓練を開始し、午前9時の消防サイレンによる吹鳴に続いて、防災行政無線や緊急速報メール、ワイラジオなどで避難を呼び掛けました。増加している外国人観光客

に対する避難訓練も今回初めて実施。洞爺湖温泉の観光情報センターでは、3か国語対応のメガホン型翻訳機やタブレット端末で外国人観光客を避難所に誘導しました。
住民らは、徒歩で一時集合場所に集まり、町内11か所に設置された各避難所にバスで向かいました。同時に自家用車での避難も実施しました。
訓練後、洞爺湖文化センターで研修会を開催。岡田弘北大名誉教授による「これから有珠山噴火に備えて：減災を勝ち取るのは一人ひとりの力」と題して講演会が行われました。講演では2000年有珠山噴火を振り返りながら「うまく逃げた、生き延びた話を伝えていく」ことが大切で「過去の教訓を学んでいく」ことを強く訴えました。
講演後には、自衛隊によるカレーの炊き出しが提供されました。
今回初めて虻田、洞爺両中学校の生徒がボランティアで6人参加し、避難所の案内や炊き出しの手伝いを行いました。